

Title	文藻
Author(s)	秋月, 胤繼; 吉田, 銳雄; 武藤, 甚 他
Citation	懷徳. 1943, 21, p. 39-43
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89104
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

文藻

新嘉坡攻略

敬軒 秋月胤繼

其一

倨然盤踞據金湯。積惡多年逞鴟張。天定勝人時正到。神兵一擊屠豺狼。

其二

陸海皇軍百鍊堅。戰攻必勝向無前。可憐驕虜皆雌伏。掌握大東洋上權。

哭黃裳中井先生三首

北山 吉田 銳雄

隱操堅持善養真。今茲八十九齡春。常言壽百應期望。何料俄爲帝僕身。
祇承祖志住嵯峨。八十年來入夢過。遺恨素心終不果。泣看千字雜吟歌。
昨夏同人啓壽筵。今年亦樂繼前緣。槐花將發期方近。底事空辭上九天。

哭黃裳中井先生

東邨 武 藤 甚

操持貞白似神仙。詩賦清純高壽年。何事溘焉騎鶴去。燈前揮淚誦遺篇。

戰 ひ の 秋

音 代 節 雄

秋のみのり今ゆたにして神國かみくにの大天地あめつちのおだしきところ (神嘗祭)

戦へる國よしの使命を遂げしむとゆたけきみのり神授かむけましし

上陸を企つえみし舟ふねのむた水屑みづくずとなしつ我防人は

肅として觀衆威儀を正しけり元帥の英姿映るたまゆら (山本元帥)

みんなみの潮の八百重の八十島やそに皇軍すめらみは今し戦ふ

○ 仲 田 應 弘

みささぎに伏しをろがめる先生を心迫りて見守る我は (長屋王墓)

赤襷かけしままにて召されゆく像ををしむと炎天に立つ

玉串を捧げまつりて今日よりは召されゆく像を正目にぞ見つ
二十一のつはもの君は敵地にて自が咽喉に向ひピストルを撃つ
水鉢の水清らけくかかるもの意識せずして生活したる

天誅倉を訪ねて

入 江 來 布

龍神街道夜行福井村より切目辻、かきさこ梯碓峠

夕 灯 黍 に あ て た る 街 道 や

山 霧 に 水 鷄 の 夕 を 鳴 き か へ る

山 霧 や 秋 の 青 田 に 立 ち の ほ る

文 月 や 霧 の 中 よ り 月 出 つ る

龍神山峽小又川畔に文久三年水郡長雄等七志士が幽閉せられし天誅倉あり

水郡長雄が倉の柱に書き遺せし歌「皇國のためにぞつくす真心は神やしるらん知る人ぞしる」村民
大切に保存す。

蒼々と天高き日となりにけり

附近 囑目

山歸來掘りしに秋の日南かな
葛の葉のおもてをうらを山畑
梶の葉や秋の句一二書きしより
螢袋晝を山路の涼しさよ
沛然と夕立しけり霧の山
龍神宿舎ゑびすや、李氏題して飛翠樓といふ。
へうくくと夕霧はしる涼しさよ

雜

吟

(尙書正義)

禹

貢

日盛りや端山に遠く岳鴉

五子之歌

剪定の生籬見えて夕立てり

白

井

文

溪

咸有一德

秋風や人は昔を劬はるゝ

○盤 庚

古郷の夢を砧に懐しむ

○説 命

星を吐く仙人ありと門すゞみ

